

## Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室】

### 1 実施主体

森林所有者、森林組合等

### 2 事業計画期間 (H22～R2)

### 3 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

県内の人工林は利用期を迎えており、木質バイオマス発電施設や大型合板工場の稼働も追い風となり、国産材需要は増加傾向にある。

それに伴い主伐も増加傾向にあることから、持続的な林業経営を行うためには、主伐後は確実な再造林が求められている。

#### (2) 目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

#### (3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000～2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、大分県森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

### 4 成果

事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。また、平成 21 年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44%であったが、令和 2 年度は 95%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〔再造林促進事業の計画及び計画〕

【単位：ha】

年度	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
計画	650	700	930	1,000	1,000
実績	663	914	823	674	796

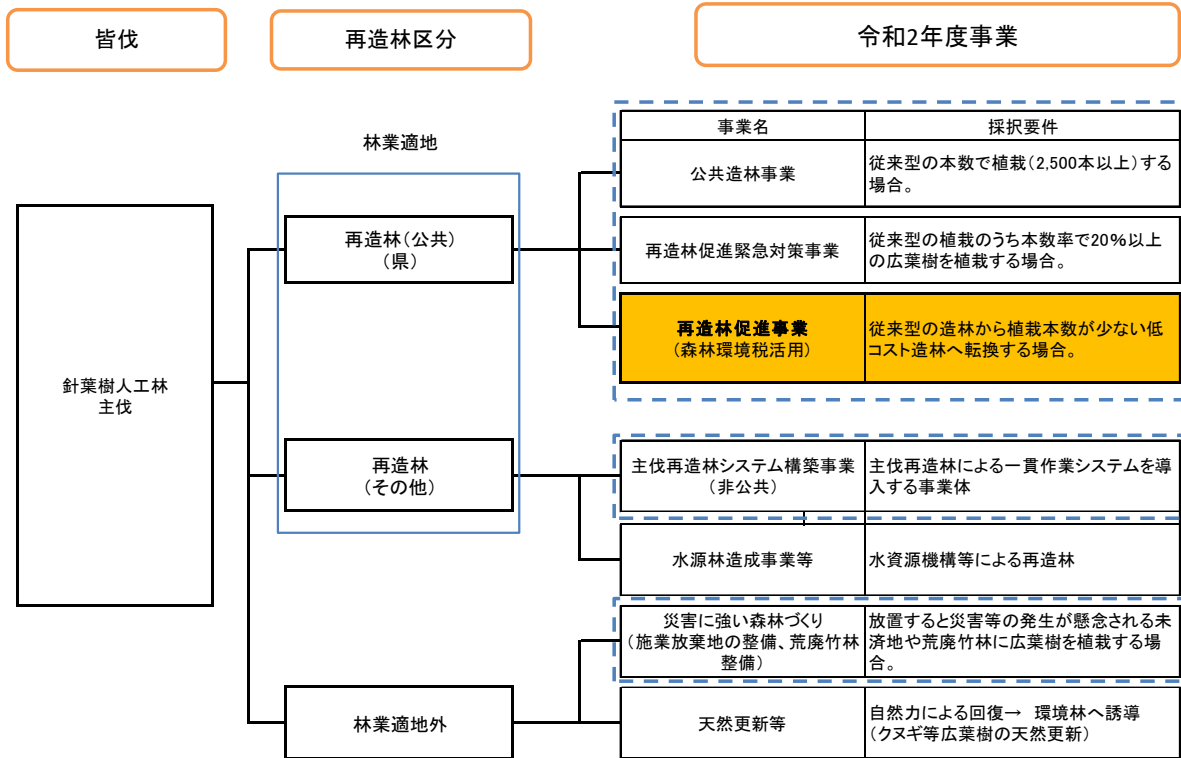
### 5 今後の課題と取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

## 6 実施状況写真



### 再造林体系図



※針葉樹人工林の主伐面積のうち、林業適地(約8割)について再造林により森林を造成

## Ⅱ－２ 超疎植モデル林造成事業

【森林整備室】

### 1 実施主体

大分県農林水産研究指導センター 林業研究部

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

近年県内各地で主伐が増加しているが、再造林コストや下刈り等の育林作業の負担増が要因となり再造林放棄地の発生が懸念されている。

そこで、県営林内に初期成長が優れている品種等を用いて超疎植造林のモデル林を造成し、造林・育林における低コスト及び省力化に向けた研究を実施する。ただ周辺地域では、シカの食害が多発しておりモデル林の適切な維持管理のための対策が必要である。

#### (2) 目的

初期成長が早いエリートツリーやスギ及びヒノキの特定母樹を疎植(1,000～1,500本/ha)し、モデル林を造成した。令和2年度から大分県農林水産研究指導センター林業研究部により低コスト及び省力化を目指した施業体系の確立に向けた研究が実施されている。継続的な調査・研究を確実に実施するためシカ食害防止柵を設置する。

#### (3) 事業内容

超疎植造林のモデル林周囲に鉄製の獣害防止柵を設置する。

### 3 成果

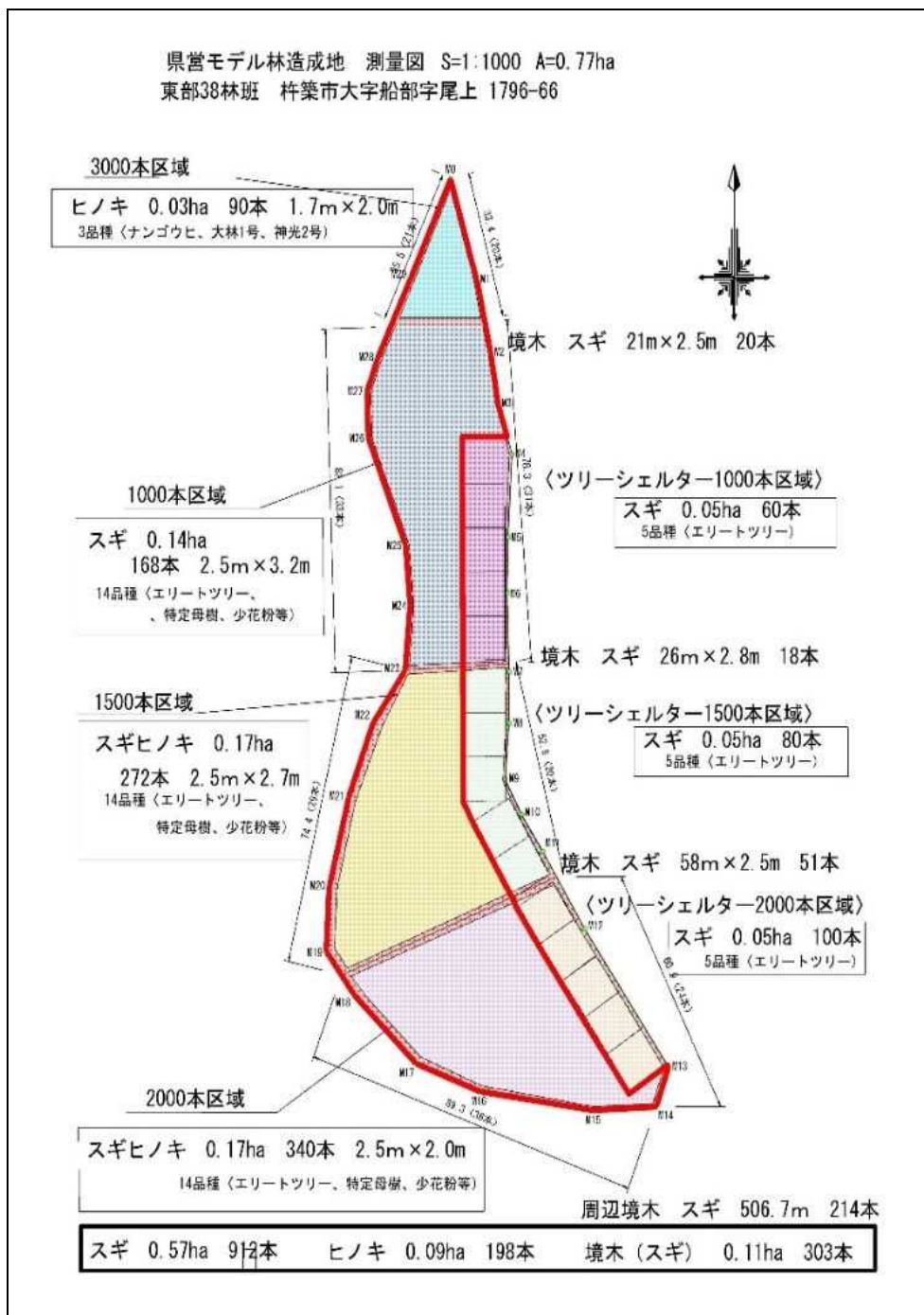
シカの食害を防止し、低コスト及び省力化が図られる施業体系の確立に向けた研究体制ができた。

・鉄製の獣害防止柵設置延長・・・541m

### 4 今後の課題と取組

引き続き、モデル林での調査研究を実施し、低コスト及び省力化が図られる施業体系の確立を図る。

## 5 実施状況写真



## Ⅱ-3 県産竹材利用促進事業

【工業振興課】

### 1 実施主体

大分県

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

本県は全国一のマダケ竹材生産地で製竹・竹工芸・竹製品卸販売等の産業が集積している。「別府竹細工」は大分県で唯一、経済産業大臣指定の伝統的工芸品だが生活様式や景気動向の変化により竹工芸品の需要低迷と、竹材供給業者の担い手不足が重なり竹材生産出荷量は減少し、竹林荒廃が懸念されている。

#### (2) 目的

竹材利用の促進の取組みとして、竹工芸従事者の自立支援と技術の研鑽を図り、竹林資源の有効活用を促進する。

#### (3) 事業内容

竹工芸訓練センターの竹工芸支援用の貸工房「未来竹房 B-スクエア」（平成21年度開設、3室）の入居者を対象に、竹製品の企画開発と展示会開催を支援し、竹材の新たな利用を探り、県産竹材並びに竹製品の需要開拓に繋げる。

### 3 成果

B-スクエア入居者による展示会

「Remote BEPPU BAMBOO WORKS ーリアルより近い竹工芸展ー」開催

◎大分会場 ※コロナの影響で博多会場／小倉会場／JR おおいたシティは中止  
会場：大分県立美術館 OPAM（〒870-0036 大分市寿町2番1号）

会期：令和3年3月5日（金）～3月11日（木）7日間

来場者数：通路を兼ねた展示スペースを使用したため、カウントなし

成果：会場と出展者の工房をリモート会議システムでつなぎ、出展者が会場に常駐せずに来場者とのコミュニケーションを確保できるよう、アフターコロナを見据えた新たな展示方式を試行した。コロナ禍の中での展示会イベントを、安全安心に実施することができた。

出展者：小嶋 力（こじまちから） 渡辺 文明（わたなべふみあき）  
尹 敏榮（ユンミンヨン）

◎東京会場 坐来大分にて R2. 11. 10（火）～ R3. 3. 11（木）広報展示（作品のみ）

### 4 今後の課題と取組

- ・工芸産業のみでは活用しきれない県内竹材の有効活用方法
- ・持続可能な竹材調達・竹林管理システム
- ・生産者組合とクリエイターを効果的にマッチングする竹工芸振興策

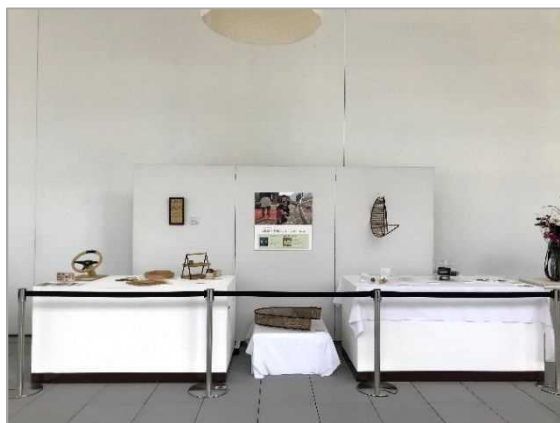
## 5 実施状況写真



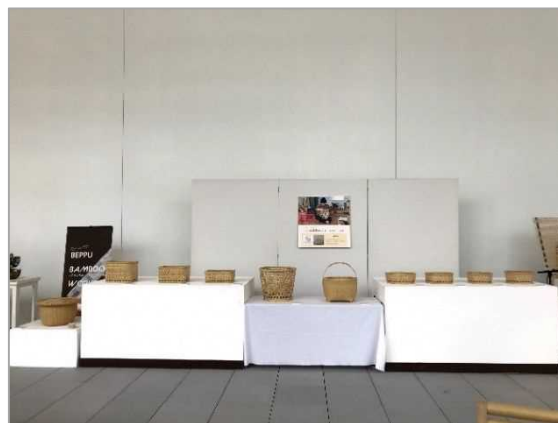
展示室 A 出入り口側から



OPAM 入り口側から



小嶋さんブース



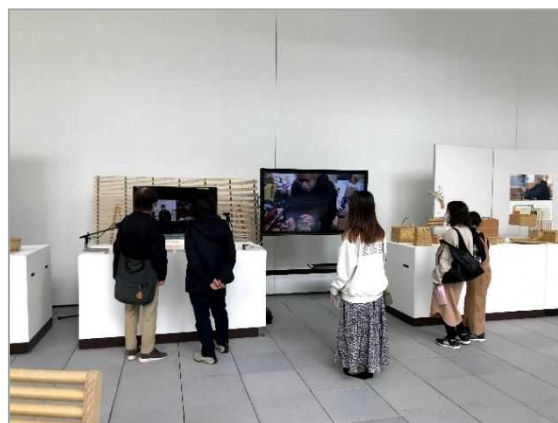
尹さんブース



渡辺さんブース



リモートアテンドブース



土日の盛況具合 ※書道展の通路であったため、来場者（家族連れ等）が足を止めていた。

## Ⅱ-4 竹産業等振興対策事業(竹林楽校)

【林産振興室】

### 1 実施主体

大分県（林産振興室）

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

本県は全国2位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

#### (2) 目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

#### (3) 事業内容

①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等  
研修生26名／研修3回実施

②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて2回開催  
竹工芸訓練センター訓練生12名。

### 3 成果

- ・たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。
- ・第2回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の2コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

### 4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いPRを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と、人材確保を推進する。

### 5 実施状況写真



## Ⅱ－５ 国際芸術文化振興事業

### 【芸術文化スポーツ振興課】

#### 1 実施主体

大分アジア彫刻展実行委員会

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

令和2年度は、ラグビーワールドカップが終了したことから、「巨大寝転び招き猫（福猫ふくにゃん）」を豊後大野市へ移設（返却）する。令和元年度に実施したワークショップが好評だったことから、豊後大野市への移設前に同様のワークショップを実施する。

##### (2) 目的

令和元年度にラグビーワールドカップにあわせて豊後大野市から大分市に移設した「巨大寝ころび招き猫（福猫ふくにゃん）」を、豊後大野市へ返却する前に、親子向けのワークショップを開催し、子ども達に木材への興味関心を深めてもらう。

##### (3) 事業内容

「巨大寝ころび招き猫」の移設に併せた、ワークショップの開催。

#### 3 成果

ワークショップを開催。15組34名の参加者を決定。

サンドペーパーを使った「ふくにゃんの毛づくろい」では、木材の手触りの違いを感じることで、子ども達が木材へ興味関心を持つ機会となった。

#### 4 今後の課題と取組

ラグビーワールドカップが終了し、おもてなしキャラクターとしての役目を終了した「巨大寝ころび招き猫」を豊後大野市へ移設（返却）したことから、本事業（ワークショップの開催）も終了することとする。

#### 5 実施状況写真

